

岡山市男女共同参画社会推進センター  
(さんかく岡山) の今後の充実に向けて

令和2年3月

岡山市市民協働局市民協働部

女性が輝くまちづくり推進課

## 岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）の今後の充実に向けて

### 1 はじめに

岡山市男女共同参画社会推進センター（以下「さんかく岡山」という。）は男性も女性もその個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らせる社会の実現を市民のみなさんと一緒に目指す拠点施設として、平成12年にオープンし、今年度で20年目を迎える。男女共同参画に関する社会情勢やさんかく岡山を取り巻く環境が変化する中、様々な立場の方々から幅広い意見を聞きながら、次の時代にふさわしい役割や機能の一層の充実に向けて検討を行った。

### 2 現状と課題

#### （1）さんかく岡山の目的及び設置

男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）の精神にのっとり、本市における男女共同参画社会の形成を促進するため、岡山市北区表町三丁目14番1-201号に岡山市男女共同参画社会推進センターを設置する。（岡山市男女共同参画社会推進センター条例（以下「センター条例」という。）第1条）

#### （2）さんかく岡山の主な事業

男女共同参画の様々な啓発事業等の拠点施設として、「岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例（以下「さんかく条例」という。）」及び岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画（以下「さんかくプラン」という。）に基づき、センター条例第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。（センター条例第2条）

##### ① 学習及び啓発

- ・さんかくウイーク
- ・コドモさんかくゼミ
- ・男女共同参画大学「さんかくカレッジ」
- ・企業における女性活躍促進事業
- ・さんかくマルシェ（シアター・講座）

##### ② 交流の促進及び市民活動の支援

- ・市民協働事業
- ・団体登録制度
- ・施設貸し出し（会議室、ミーティングルーム、ギャラリー展示スペース等）

##### ③ 情報の提供及び収集

- ・図書・DVD・ビデオ

##### ④ 相談

- ・男女共同参画の事業に関する相談

- ⑤ 調査及び研究
  - ・男女共同参画に関する新しい課題解決の方策の調査、研究
- ⑥ 総合調整
  - ・公民館、関係機関等との総合的な調整
- ⑦ 託児施設の管理運営
  - ・ボランティアによる託児室の運営

### **(3) 課題**

- ① 事業・活動内容
  - ・社会情勢等の変化に伴う新たな課題への取組  
新たな課題：女性活躍、ワークライフバランス、性の多様性、防災 など
  - ・地域の課題解決につながる実践的な取組  
地域の課題：様々な分野において性別役割分担意識が未だに根強い、地域における活動の参加について性別・世代に偏りがある など
  - ・実践的な活動のための公民館、町内会、NPOなど多様な団体等との連携・協働、ネットワークの構築
- ② 人材育成
  - ・さんかくカレッジ参加者の固定化
  - ・後継者不足等による登録団体の減少
  - ・市民協働事業における実施団体・参加者の固定化
- ③ 施設
  - ・施設の認知度が低い
  - ・利用者が増加しない
  - ・利用者層（年代・性別等）の固定化
- ④ P R
  - ・情報発信・広報の充実

## **3 さんかく岡山の目指す姿**

これらの課題を踏まえ、さんかく岡山の充実を図るためには、これまでの男女共同参画に関する知識習得や意識啓発を中心とする取組に加え、男女共同参画の視点から地域における課題を解決する実践的な取組を進めていくことが必要である。

そのために、地域の課題を的確に把握して情報を提供し、地域の多様な団体等との連携・協働やネットワークをコーディネートする機能を充実・強化させ、人材を発掘・育成する中心的役割を担う施設を目指す。

## **4 今後の充実に向けた方向性**

### **(1) 男女共同参画の啓発のあり方**

従来からの取組に加えて、地域の課題解決につながる実践的な活動が必要。堅

いイメージのある男女共同参画という専門的なテーマを、幅広い市民にどのように浸透させるかが重要。

- ・女性活躍が進められる一方で、依然として根強く残る性別役割分担意識、セクハラ、DV等の問題に加え、女性活躍、ワークライフバランス、性の多様性、防災などの新たな課題に、女性だけでなく男性の意識も変えることが必要。
- ・SDGsと結び付けた啓発活動を行う（学生や企業などの関心が高い）。
- ・多くの人が興味を持っている旬なテーマと関連づけた講座を実施する。
- ・さんかく岡山で開催する講座、セミナーについて、地域（公民館、ふれあいセンター、大学等）に出向くスタイルを拡充していくことで、裾野を広げていく。地域に出向くことは、新たな課題の発見につながり、さんかく岡山のPRにもなる。
- ・集客力や魅力のあるイベントと組み合わせて啓発活動を行う。

#### <ターゲット層の見直し>

目的に応じた効果的な事業の実施及びPRを工夫するために、ターゲットを詳細に分類し、整理することが必要。

- （例）女性活躍、ワークライフバランス、セクハラ、DV、子育て・介護、高齢者、防災、性の多様性、SNSの危険性などの事象ごとにターゲットを分類し、整理していく。

#### （2）人材育成・発掘

地域の課題解決のため、活動の中に男女共同参画の視点を加えていくには、地域において取組の中心となる人材が必要。

- ・現状  
例えば、「さんかくカレッジ」では、今は防災への関心が高く、学ぶ意欲もあるが、リーダーの養成となると参加者が集まらない。学んでも、アウトプットに結びついていない。
- ・町内会、民生委員、愛育委員など地域ですでにリーダー的な立場の人を対象に講座、セミナー等を行い、地域活動の中で男女共同参画の視点をもって取り組んでいくことができる人材を育成していく。
- ・すでに何らかの分野の活動に取り組んでいる人や地域活動等に参加している人、市民協働事業に関心がある大学生や団体などを掘り起こし、現在の活動内容に男女共同参画の視点を加えるよう働きかける。
- ・ESD市民協働推進センターと連携し、NPO等の先進的な運営ノウハウの事例を紹介するなど、登録団体における後継者養成の支援を行う。

### **(3) 地域（公民館・町内会等）や各種団体（NPO等）との連携**

男女共同参画推進が重点分野の1つとして位置づけられている公民館、地域とのつながりの拠点である町内会との連携は重要。さらに、NPOなどの団体と連携することで、活動の幅を広げ、一層効果的に取り組みを進めていくことが必要。

<公民館>

地域に密着している公民館は7つの重点分野の1つに男女共同参画推進を掲げている。公民館とさんかく岡山それぞれの強みと役割を明確にした上で連携し、地域とのネットワークづくりや課題解決に向けて取り組む。

<地域・各種団体>

- ・経済団体、企業、NPO、大学、県など様々な団体等と連携した取組を進めていく。
- ・様々な活動を行っている団体を男女共同参画の視点から結び付け、課題解決に向けて事業等をコーディネートする中心的役割を担う。

### **(4) 防災における男女共同参画の推進**

男女共同参画の視点から地域防災の推進拠点としての役割、機能を発揮するため、具体的な取組を検討することが必要。

さんかく条例第19条の3に災害対応時に男女共同参画の視点を入れることを明記。（平成31年4月1日改正）

- ・事前の備え・防災

避難所の運営や災害現場等における男女のニーズの違いや女性の視点に配慮した平時からの対策（防犯対策、備蓄など）の啓発がさらに必要。

- ・地域に出向いて意識を高める。

（例）関係部署と連携して自主防災組織に働きかける。

- ・災害発生時の対応

関係部署と連携して、災害発生時に男女共同参画の視点からさんかく岡山が果たす役割等について検討しておくことが必要。

### **(5) 情報発信・広報の充実**

- ・イベントの案内、チラシ等を丁寧に分かりやすくする。

（例）・イベントの申込方法など必要な情報が直感的に分かるようなレイアウト、デザインの工夫が必要。

- ・施設案内では、会議室などの利用案内を「予約する人」の視点で記載する。

- ・SNSを活用し、事業内容、対象とする世代に応じた効果的なPRを行う。また、さんかくウイーク実行委員など若者のアイデアを取り入れる。

- ・国等が実施する啓発運動に合わせて広報活動を行うことで、相乗効果を図る。

（例）女性に対する暴力をなくす運動（11月12日～11月25日）

## (6) 人が集うさんかく岡山

誰でも気軽に立ち寄りやすい雰囲気づくりが必要。

- ・表町商店街と協力し、商店街アーケードに横断幕を掲げ、さんかく岡山の場所を分かりやすくする。
- ・専用駐車場がないため、周辺の駐車場の地図を作成し、情報提供する。
- ・さんかく岡山へのアクセスに路面電車の利用が便利であることを、まちづくり、エコの視点からもPRする。
- ・レイアウトの見直しを検討する。  
キッズスペース、ギャラリー、交流サロンなど
- ・くつろぎ、交流の場としてカフェコーナー等を検討する。

## 5 おわりに

男女共同参画に関する社会情勢やさんかく岡山を取り巻く環境が変化する中、地域の課題や市民のニーズを踏まえ、実践的な取組を進める拠点施設として、今後の方向性に沿って一層の充実を図っていく。将来的には、地域における課題解決の実践的な取組をさらに効果的に進めていくために、地域により身近な活動を行うことができる新しい運営形態を検討していくことも必要と考える。

## 【参考】

### 検討経過

#### 1 アンケートの実施

公民館・登録団体・さんかくウイーク実行委員・市民（さんかく岡山利用者、さんかくウイーク参加者・保育園保護者）

#### 2 意見交換会の実施

町内会・岡山商工会議所・大学生・子育て中の親・NPO

#### 3 岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会での意見

- ・令和元年6月6日 現状と課題について説明
- ・令和元年8月23日 今後の方向性について
- ・令和元年10月17日 中間まとめ
- ・令和元年12月16日 最終まとめ

（岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員名簿）

大森哲也 表町商店街連盟専務理事

塩田澄子 就実大学薬学部・大学院教授

白髭研介 (株)山陽折込広告センター取締役社長

谷口抄子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科准教授

富谷忠明 岡山市立足守中学校校長

馬場英子 岡山人権擁護委員（男女共同参画部会長）

守屋宣男 ふれあい健康体操クラブB代表（さんかく岡山登録団体）

山下美紀 ノートルダム清心女子大学文学部教授

（50音順）